

第4回 セラ治療院

構成・撮影●希瀬本夕紀 医療ジャーナリスト

町田久院長に訊く

ハンドマッサージでつくる「免疫アップのきっかけ」
治療のイメージを変えるビタミンEとの出会い

町田 久（まちだ・ひさし）

1948年生まれ。セラ治療院院長。1974年セラ治療院開業。1975年日本鍼灸理療専門学校卒業。1994年中国福建中医学院名誉教授就任。2004年環太平洋アロマ代替療法協会（APSA）会長、韓国京畿大学大学院兼任教授に就任。日本統合セラピスト教育協会（J-EAT）会長。

たとえ末期のがんに苦しむ人でも、家族の手が触れると痛み・苦しみが和らぎ、ときに医師の想像を超えて延命することもある。東京都渋谷区のセラ治療院の町田久院長は、そのような場面に幾度となく遭遇してきました。こうした「手」による働きかけを、町田院長は「タッチング」と呼び、ビタミンEなどを用いたハンドマッサージとして、がんやリュウマチ、喘息などの患者さんの症状を軽減させています。

今回は、そのタッチングの効果を中心に、町田院長に分子栄養学、アロマセラピーなどについてお話をうかがいました。

●注目されている
「ビタミンEの効用」

——セラ治療院の特徴である、ビタミンEを用いたマッサージを施すようになった経緯を教えてください。

町田 セラ治療院は、今から35年前に開業しました。開業して間もなく、慶応義塾大学、津田塾大学などで物理の教授をされていた三石巖先生が糖尿病の治療で当院にいらっしゃいました。

当時、先生は分子栄養学を提唱